

がん経験をつなぐサイトを運営

おおくぼ 淳一さん



がん経験者や治療中の人をつなぐ交流サイト「5 years (ファイブイヤーズ)」を運営している。自身の闘病経験から「治療中にほしいのは病気を乗り越えた人の実体験。患者や家族のため有益な情報が集まる場をつくりたい」と考えたためだ。

東京の外資系証券会社に勤務し、サロマ湖100キロウルトラマラソン（北見市など）で完走を続ける健康体のはずだった。だが2007年、42歳で睾丸がんを発症、腹部や肺にも転移していた。抗がん剤の副作用で肺線維症も併発。妻と2人の子供

がいる中、見聞きするのは悲観的な情報ばかりで「将来に希望が持てなかつた」。そんな時、がんから復帰したスポーツ選手の存在を知り勇気が湧いた。治療を終え08年に仕事復帰。「自分にしかできない社会貢献を」と決意し、昨年退社した。

今年2月に開設した無料サイトは、登録者の経験や生活状況が読み、話を聞きたい人に申し込む仲介で約30分の電話座談会もできる。サイト名は「治療で使う指標『5年生存率』を乗り越え、明るい未来を生きてほしい」との思いから。現登録者は300人。現在はがん中心だが、将来は病気の対象を広げる。

治療後はマラソンにも復帰。6月28日のサロマ湖マラソンは、発症前の自己記録を更新して完走した。「病気になつても人生は終わりではない。そう社会に示すのが目標です」。東京在住。51歳。サイトは<https://5years.org>。（金子俊介）